

第26回 学校対抗英語ディベート大会

1. 日時： 2020年(令和2年)2月4日(火) 13:20~16:30
2. 参加校： 兵庫県立尼崎小田高等学校 国際探求学科2年生(39名)
兵庫県立姫路飾西高等学校 普通科国際文科系コース2年生
兵庫県立加古川西高等学校 普通科国際市民類型2年生
3. 場所： 兵庫県立加古川西高等学校 兵庫県加古川市加古川町本町118 (Tel: 079-424-2400)
4. 日程：

13:20	受付
13:30	司会者・主審査打ち合わせ
13:45	開会式 (会場校管理職・各校生徒代表等挨拶)
14:10	試合会場へ移動 (各試合会場)
14:25	第1試合開始
15:05	試合終了、会場移動
15:15	第2試合開始
15:55	試合終了
16:10	閉会式 (ジャッジ講評等、全員記念写真撮影)
16:30	解散

5. 討議論題： The Japanese government should limit the weekly maximum average working hours, including overtime, to 48hours(following the E.U.).
「日本国は、残業も含めた週あたりの最長平均労働時間を (EU にならい) 48 時間に制限すべきである。是か非か。」 (第13回兵庫県高校生英語ディベートコンテストと同一論題)
6. 実施要領：

(1) 試合時間

順番	内容	時間
1	Affirmative Constructive Speech (肯定側立論)	4分
	Strategy Time (作戦タイム)	1分
2	Negative Cross Examination (否定側尋問)	3分
	Strategy Time (作戦タイム)	1分
3	Negative Constructive Speech (否定側立論)	4分
	Strategy Time (作戦タイム)	1分
4	Affirmative Cross Examination (肯定側尋問)	3分
	Strategy Time (作戦タイム)	2分
5	Negative Attack Speech (否定側アタック)	2.5分
6	Affirmative Attack Speech (肯定側アタック)	2.5分
	Strategy Time (作戦タイム)	2分
7	Affirmative Defense Speech (肯定側ディフェンス)	2分
8	Negative Defense Speech (否定側ディフェンス)	2分
	Preparation Time (準備タイム)	2分
9	Affirmative Summary Speech (肯定側まとめ)	2.5分
10	Negative Summary Speech (否定側まとめ)	2.5分
	Judgment (審査)	
合計		37分

(2) 出場人数

- ①各高校より原則 40 名（1 クラスの全員）が参加する。
- ②1 クラスの全員が参加する場合、1 チーム 4～5 名とする。
- ③帰国子女は各チーム 1 名のみの出場を認める。
- ④3 校から合計 24 チームが出場、計 12 試合を 6 会場で 2 回に分けて実施する。

(3) 司会・審査・組み合わせ

- ①司会は会場校の 3 年生が 1 名で担当する。
- ②審査は各校の J T E、A L T の計 2 名で担当する。
- ③勝敗は審査員の得点で決定する。
- ④試合会場および組み合わせは別紙一覧表に掲示する。

(4) 実施細則

- ①Constructive Speech（立論）は 1 名以上で実施。
制限時間（4 分）をこえても発言は継続できるが 4 分 15 秒で発言を制止する。
- ②Cross-Examination（尋問）は 3 人以上で実施すること。
2 人以下の場合は 3 点を減点する。制限時間を超えて発言できない。
- ③Attack Speeches（反駁）は、3 人以上で実施すること。
2 人以下の場合は 3 点を減点する。制限時間を超えて発言できない。
- ④Defense Speeches（防御）
- ⑤Summary Speech（まとめ）制限時間 2.5 分を超えて発言できない。
- ⑥審査基準については、別紙審査用紙の「審査基準」及び「その他の注意事項」に準ずる。

(5) 運営

各校生徒が以下の仕事を分担し、各会場の運営を行う。

- ①計時係（会場校 6 名）
- ②受付係（会場校生徒が受付および誘導）

【参加生徒アンケート(尼崎小田)】

- ・ディベートを通して、自分はこうだと思っていたけど別の考え方もあるのだと感じることが多くあった。
- ・私はディベートでサマリー役だったのですが、ちょっとは英文を作るのがはやくなりました。またリスニングも少しできるようになりました。
- ・聞き取れないことが多かったので、もっとリスニング力をつけなければいけないと思った。
- ・学校対抗のディベートが今までしてきたディベートの中で一番良い出来だったと思う。私は最初のころ、一言も発せず気づいたらディベートが終わっていたことがよくあった。それは班員とのコミュニケーションが全くなかったからというのも原因の一つだと思う。
- ・最初はあまり好きじゃなかったけど、チームに本気で楽しんで取り組んでいるメンバーがいたので、僕も最後にはちゃんと取り組むことができたので良かったと思う。僕だけ積極的にやっていなかった時期があったが、ちゃんとやってみたらとても楽しかった。
- ・ディベートをする上で一番準備が大切だと思った。準備なしでは当然知識がないので相手の立論を理解することもアタックすることもできないので毎日の積み重ねが自分を支えてくれたと思う。
- ・ほぼすべての能力がディベートでは必要とされるのだとわかりました。リスニングができて文章にできないと意味がないし、ライティングができて相手の意見が聞き取れなかったら勝てないのでディベートは非常に難しいと思いました。でも、言い換えると、すべての能力が全体的にバランスよく身につくものだと思います。
- ・相手の弱点を攻める時も、逆に守るときもデータをを用いることが一番有効で相手が嫌がるので、データをどれだけ多く集めることができるかが勝敗に大きく関わるといことがわかりました。

【大会結果】

10 月から国際探求Ⅱで取り組んだディベート学習の成果として、全員参加の学校対抗ディベート大会に参加した。今年度は加古川西高校での開催となった。本校は肯定 4 チーム、否定 4 チームに分かれて全 8 試合を行い、2 勝の成績となった。各校ともよく準備されており、レベルの高い大会となった。次年度は尼崎小田高校で実施予定。